

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2990500049		
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」		
所在地	榎原市醍醐町156番地		
自己評価作成日	平成25年9月20日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様には季節を感じて頂きたく努めています。裏の畑で作った野菜を日々の食事に取り入れて提供させて頂いている。又ホームの玄関 正面に季節の花々を折り紙で利用者様と作り張り出しています。又どうしても座って過ごす事が多い中で少しでも意欲的に体を動かして頂く為に朝、夕の体操や移動パン屋さん ボランティアの方々の受け入れ等不穩の軽減に結びついている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/29/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&JigyosyoCd=2990500049-00&PrefCd=29&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年11月29日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは閑静な住宅の中にあり、自然の環境にも恵まれ車の通らない安全なコースを選び、利用者はゆったりと散歩を楽しんでいます。「安全に安心してそして穏やかに暮らして頂く」と掲げた理念は、家族にも安心して暮らしてもらいたいとの思いも込められ、運営推進会議と家族会を併せて行い、毎回多くの参加者があり率直な家族の気持ちや声を気軽に話し合える場となっています。また、地域にホームを知ってもらう取り組みとして行事と見学会を兼ねた案内を配布し参加が得られ、グループホームについての理解が得られてきています。職員が得意な楽器を弾いて利用者の好きな歌を歌う機会を作ったり、レクリエーションを行い活動を増やしなが、利用者楽しんでもらえるよう日々のケアに取り組んでいます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安全に安心してそして穏やかに暮して頂く」を目標に日々の寄り添うケアに取り組んでいます。目に着き易い場所に掲示してスタッフの自覚と意識付けをしています。	法人の理念の基、職員と作ったホーム独自の理念を玄関に掲げ、新人職員には理念に込めた思いを口頭で伝えています。地域向けに配布する広報誌の中にも理念を載せ、家族も共に安全に安心して暮らしてもらいたいとの思いを伝えています。全職員は理念が活かされているか振り返りながら日々のケアを実践しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今回も第3回目のニチイ祭りを予定して居ります。地域の方や家族様にも来て頂けるようにペラを作成しております。	地域の情報は自治会より得て、職員が地域の清掃に参加したり、利用者が行事に参加できるよう支援しています。ホームの祭や行事に併せて見学会を開催し、知ってもらえるよう取り組んでいます。散歩で近隣の方とは挨拶を交わし、果物のお裾分けもあります。地域のボランティアが踊りや大正琴を披露したり、中学生の体験学習を受け入れ、祭に吹奏楽部の演奏が恒例となっています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居の相談やホーム見学に来られた家族様に対して抱えておられる不安等聞きながら都度対応させて頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に1回の会議にはホームの状況報告させて頂きスタッフと共に充実した会議になるように常に取り組んでいます。そこでのサービスの向上に繋げて行ける様に努めています。	会議は年6回開催し、介護相談員や家族、行政と地域包括支援センター職員は毎回交替で参加しています。平日から土曜日に変更した事で多くの家族が来れるようになり、家族が新聞の記事を持参し読み上げたり、ホームの現状や介護保険について伝える機会となり、家族の気持ちや思いを聞ける有意義な会議となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の介護相談員さんを受け入れて貴重なご意見を聞いております。そして行政の担当の方に現場の実情を伝える機会を作っています。	土曜日に開く運営推進会議に市の担当者も参加しています。わからない事は市の担当者に電話で問い合わせたり、都度電話で相談しホームの実情を伝えています。メールで市の案内が届き、市の介護相談委員の報告会にも参加しています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	開放的な環境作りに努めています。そして各委員会でも取り組んで正しく理解し意識付けをしてケアに取り組んでいます。	採用時研修や身体拘束について全職員が研修を開き、職員に周知しています。言葉による制止についてリーダーが具体的に職員に伝えたり、ケース会議の中で拘束のないケアを行っているかなどを話し合っています。玄関は開錠し、体制によりフロアの出入り口をロックする時もありますが、自然な見守りと付き添いがなされています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しいスタッフが増えマニュアルは勿論の事ケアの中でも拘束の話をしながらか対応させて頂いております。そして又スタッフが心身共に元気で働ける環境作りに努めています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在後見人制度を活用している利用者様が居られるので今後も支援する機会があれば活用して行きたいです。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前後には利用者様家族様には要望を聞いて十分な説明を行い安心して利用して頂ける様に努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	二ヶ月に1回運営推進会議及び家族会議を開催しています。そして出席者の方より貴重なご意見を聞かせて頂き要望にお答え出来るように努めております。	運営推進会議と家族会を兼ねた会議が年6回開かれ、毎回多くの家族が参加し意見や要望が出されています。食事の内容についての質問や小遣い金の預かり方などの意見が出され運営に反映させています。面会時も言いやすい雰囲気作りを心がけ、電話でのやりとりや介護計画の見直し時等にも意見を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム会議やカンファレンス等で個々の意見を聞くように努めています。	毎月のホーム会議とカンファレンスや各委員会活動の中で、職員は意見を出し合っています。リーダーが聞いた職員の意見を管理者に伝えたり、提案の内容によっては法人に挙げ、実践できるよう取り組んでいます。個別面談を行って職員の意見や提案を聞く機会を作っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	出来るだけ働きやすい環境作りに努めています。人的環境が一番であると共に出来るだけ個々の話を聞くようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加は出来るだけ調整しています。働きながらのトレーニングは その時々 に併せて必要な声かけを行う努力をしています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護相談員派遣事業における三者間連絡会に参加させて頂き同業者との交流を持ち色々な情報を得てサービスの向上に努めています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントをきちんと踏まえ本人や家族のニーズに応えられるように計画を立てて信頼関係が構築できるように努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	十分に要望や意見を聞いたり関係作りに心掛けています。そして安心して頂ける様に何時でも電話にてお話させて頂いたり対応に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	情報を元に話し合い必要なケアをスタッフ一同徹底し行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様から教えて頂く事が多々あります。日常生活の中で何か負担にならないよう役割を持って頂けるよう努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の思いを尊重し共に理解し支援出来る様に努めています。又行事にも参加して頂き交流を図っています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や家族様と一緒に外出に制限は無いことをお伝えし入居の習慣などが制限されず継続できるよう支援しています。	家族の協力の下、遠方への外泊の実現や冠婚葬祭に出席しています。その際の支援としてホームでの様子や気を付けている事などを家族に伝えていきます。友人の面会も多く、大勢で親戚の方が来られた時は和室を提供し、寛いでもらいやすいよう配慮しています。また友人の中には一緒に行っていたボーイスカウトの制服を着て来られ懐かしむなど、これまで大切にしてきた人や場所の関係が継続できるよう支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来るだけフロアで過ごして頂ける雰囲気作りに努めています。又スタッフが利用者様とのパイプ役となり円滑な交流が持てるように努めています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	共同生活の中で1人ではなく個々の思いに沿った関わりが出来る様努めています。行動を強制する事無く自然な状態で1日1日を過ごして頂いています。	利用者・家族から聞き取った生活歴や趣味、暮らし方などの思いや希望を把握するようにしています。関わりの中で得られた情報や気づきをカンファレンスで話し合い、利用者一人ひとりのその日のつぶやきを大切に記録に残し、思いの把握に繋げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面談時本人や家族からの情報を得られるよう努めています。入居後も日常の会話からより多くの情報が得られるように努力しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日頃の状態を把握し全員で共有し少しの変化にも対応できるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現場スタッフを中心に話し合い介護計画を基にモニタリングを行い現状に即したプランの作成に努めています。	計画作成者を中心に、利用者・家族の思いを基にカンファレンスで職員と話し合い介護計画を作成しています。サービス担当者会議を開催して3ヶ月ごとに計画を見直しています。モニタリングは、追記された情報や日々の記録の中から利用者が発した言葉も加味し、その人らしい計画となるように努めています。医師や家族の意見も反映させています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌 介護記録 申し送りなどスタッフで共有しケアに活かせるようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	出来る限り本人や家族様のニーズに応えられるようにその人にあったサービスの提供に取り組んでいます。		

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	皆さんが生き活きと暮せるように支援させて頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医 当診療所との連携を計り協力体制を作り支援させて頂いています。	以前からのかかりつけ医や専門医への受診は家族が対応し、口頭で情報交換しています。また往診可能なホームの2箇所の提携医を説明し選んでもらい、月2回の往診や緊急時、夜間の対応も可能な体制も整えています。月1回の口腔ケアと月2回訪れる訪問歯科の往診は、家族に相談しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の介護日誌の情報提供で家族様 医療介護が連携をとれるように行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には本人の状態を見ながら病院側との情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	可能な限り長く過ごして頂ける様に主治医や家族様と相談しながら支援に取り組んでいます。	基本的に看取りの支援はできないとのホームの方針を入居時に説明しています。医療行為を必要とせず家族がホームで最期を迎えたいとの希望を受け、医師や訪問看護師、家族、職員の連携で看取りの支援を経験しています。家族が医師から直接話を聞いたり、また往診医も都度様子を診にホームへ来てもらいながら、ホームで出来る限りの支援をしています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に2回の消防訓練を実施しています。そしてAED設置 応急手当の講習会も定期的に行い実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し手順を全員で共有し緊急連絡網を張り出し意識を持って努めています。	年2回避難訓練を実施し、内1回は消防署の協力のもと昼間を想定して初期消火や通報、避難誘導の訓練を行っています。自主訓練では2階から避難誘導する方法を人形を使って実際に体験しています。提携医の提案より今後夜間帯の訓練を実施を検討しています。消防署が主催する災害の研修に参加したり、消防団との連携も視野に入れ取り組んでいく予定です。	

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様を敬称し傾聴で対応しスタッフ全員で取り組んでいます。	言葉がけのトーンや言葉遣いについて、利用者を常に目上の人として敬い、尊重して対応するよう日々のケアの中で具体的に伝えていきます。不適切な対応があればリーダーが注意したり、個人面談の中で話し合っています。管理者はケース会議で認知症ケアの理解を促し、言葉かけの一言一言の大切さについて振り返るようにしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に傾聴の姿勢で対応し利用者様を尊重するように努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々のスケジュールの中にやって頂きたい事や身体状況を見ながら取り組み支援出来る事に努めています。そして充実した1日を過ごして頂ける様にコミュニケーションを取っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方が持っているお洒落心を大切にその日の服装を選んで頂き又その日その日の声かけ等させて頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	体調や好みに合った食事の提供に努めています。準備から後片付けも利用者様と共にしています。	献立が重ならないよう配慮したり、日々利用者の食べたい物を聞いてその日の献立を考えています。買い物は職員が行い、利用者は皮むきや味付け、盛り付けなど出来る事に携わっています。外食に出かけたり、利用者の希望で出前や手作りの弁当を作っています。ガレージでバーベキューをしたり、手作りのおやつ、畑の収穫物を食卓に載せる等、楽しんでもらっています。介助の必要な利用者には食卓に着いてさりげなく支援しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量も記録して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝夕の口腔ケア、昼のうがいは励行そして付き2回のデンタル訪問で口腔ケアマッサージを行っています。		

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄用品で心地良い自立支援に努めています。	個々の排泄をチェックし介護記録に残し、パターンを把握し声かけや誘導を行いながらトイレで排泄できるよう支援しています。排泄前のサインや行動パターンを見ながら声かけや誘導を行い失敗が減り布の下着に変更したり、排泄の状況や下着の種類などについてカンファレンスで検討し、排泄が自立できるよう支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事形態 毎日の水分補給又適度な運動 日々の散歩など取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	希望に応じて朝から入浴して頂くこともあります。又入浴剤も入れて気持ちよく入って頂くように取り組んでいます。	毎日朝から風呂の準備をし、午前から15時位までの時間帯で利用者の希望する時間に入浴してもらっています。週3日を入浴の基本とし、利用者の希望で毎日の入浴や足浴、シャワー、清拭で対応することもあります。ユズを用いた季節湯や皮膚にあった石鹸を使い、入浴を楽しんでもらっています。拒否される時は、職員や時間を変えたり同姓介助も試みています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安心して気持ちよく休息したり休んで頂ける環境を整えています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師 薬剤師と連携を取りながら個人の薬ケース薬の説明書を利用し服薬管理を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来る事 楽しめる事を見つけて頂き日々のレクレーションを楽しんで頂いています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	気候の良い日は散歩に出かけるようになっています。外食 遠足 買物などは家族様の協力をお願いしております。	天気の良い日は近隣の散歩コースを皆が散歩し、近くの公園へ弁当を持って外出することもあります。また椅子やベンチが置かれた玄関前やテラスに出たり、畑の草抜きや菜園作りを行いながら外気浴を楽しんでいます。家族と買い物に出かけたり、遠足や季節毎の花見は家族にも参加を呼びかけ実施しています。	

ニチイケアセンター榎原醍醐「すずらん」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いをお預かりしています。希望に応じて使えるように支援居ています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	いつも希望に応じて自由に電話連絡できる環境作りのに努めています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の生活が家族様にも見えるように色々な作品を展示し季節を感じて頂いています。	玄関や廊下、リビングには利用者や職員が作った貼り絵が飾られ、窓から見える畑や木々からも季節が感じられます。掃除が行き届いた清潔で明るいリビングは、温・湿度の調整に配慮し過ごしやすよう努めています。和室は家族の面会時に利用してもらったり、休息の場として利用者が過ごしています。1人がけのソファを置いたり、テーブルの配置や楽しくレクリエーションに参加出来るよう椅子を移動させるなど、工夫し空間を作っています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室で過ごしてもらったり 又椅子を移動させて会話をしたり気楽に過ごせるように配慮しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時 愛着の家具を持参してもらったり その人らしい生活の空間作りのに努めています。	カーテンとエアコンは備え付けられており、馴染みの物を持って来てもらうように家族に話しています。ベットやテレビ、観葉植物、卓上の冷蔵庫、化粧品など使い慣れた物を持ち込んでいます。家族の写真や飾り、畳の生活を希望される利用者の生活習慣の継続の支援など、その人らしく安心して暮らせるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	スタッフが見守る中でそれぞれの身体機能に適した形で安全かつ出来るだけ自立した生活が送れるようにしています。		